国立　東京外国語大学

プログラムの名称　e-アラムナイ協働による学生留学支援

プログラム担当者　理事（副学長）小林　二男

キーワード　１．留学　２．卒業生の集合知　３．SNS（コミュニティ型の情報交換システム）
４．卒業生と在校生の交流　５．キャリア発達

１．大学の概要

国立大学法人東京外国語大学（以下、「東京外国語大学」という。）の基本的な目標は、日本を含む世界諸地域の言語・文化・社会に関する教育と研究を通じて、地球社会における共存・共生に寄与することにある。

教育面では、豊かな人間性、深い思考力、鋭利な感性を養い、高度なコミュニケーション能力、豊かな教養、広い視野を身につけ、様々な文化的背景を持つ世界諸地域の人々と協働して地球的課題に取り組むことができる人材を養成する。

研究面では、世界諸地域の言語、文化、社会について領域横断的な創造的研究を推進し、地球社会が直面する諸問題の解明に寄与することを目指す。

同時に、社会との連携を深め、多言語・多文化状況が急速に進む日本社会に、東京外国語大学独自の教育研究活動の成果や知的資源、人的資源を、様々な方法と媒体を通じて還元していく。

２．本プログラムの概要

本プログラムの概要は以下のとおりである。

本学同窓会組織が世界各地に有する海外支部の潜在的な言語的、文化的及び人的資源を発掘し組織化することで、本学卒業生の集合知を学生支援力とし、学生の留学前や留学中、更に卒業後のキャリア支援をも視野に入れた支援体制を構築するものである。具体的には、SNS[1]（コミュニティ型の情報交換システム）を活用した支援基盤体制を整備し、言語と地域を軸とした電子支援コミュニティ（e-アラムナイ）を組織する。e-アラムナイにおいて学生の相談や交流、情報交換を活発化させ、学生の不安を解消し、意識と意欲を高めることで、良好な留学環境づくりを支援する。従来の学内組織が実施する学生支援とは異なり、海外に居住する本学卒業生が関わり、留学先の選択や準備に関して適切な助言を行う他、留学中の学習・生活も学内組織と協働して支援する。さらに卒業生と在校生の交流の促進により、卒業後のキャリア発達にも好影響が期待される。

1　SNS: Social Networking Service.

３．本プログラムの趣旨・目的

（1）背景

（i）留学支援業務の複雑化

外国語学部には26の専攻語があり、各専攻語の留学者数を表１に示す。学生の留学先は、平成19年度実績で、ヨーロッパ（103名）、北米（35名）、中南米（17名）、オセアニア（12名）、アジア（101名）、中近東（８名）、アフリカ（４名）で、極めて広域となっている（図１）。また、留学先言語の多様性（26専攻語）と、留学する学年の多様化（２年生30名、３年生201名、４年生49名）のため、学生へのきめ細かな留学支援が必要である（図２）。更に、近年、治安の悪化や疫病の流行などにより、生活上の安全確保のための支援・指導体制の充実が急務となっている。

表１ 学生の留学状況

留学状況（専攻語（人数））	
タイ語（８名）	フランス語（18名）
中国語（32名）	ドイツ語（15名）
アラビア語（５名）	ラオス語（５名）
ロシア語（12名）	トルコ語（６名）
ペルシア語（５名）	ビルマ語（７名）
カンボジア語（７名）	フィリピノ語（12名）
ポーランド語（４名）	ベトナム語（７名）
チェコ語（６名）	ポルトガル語（22名）
インドネシア語（４名）	スペイン語（25名）
朝鮮語（19名）	イタリア語（19名）
モンゴル語（８名）	マレーシア語（６名）
日本語（３名）	ヒンディー語（５名）
ウルドゥー語（６名）	英語（14名）

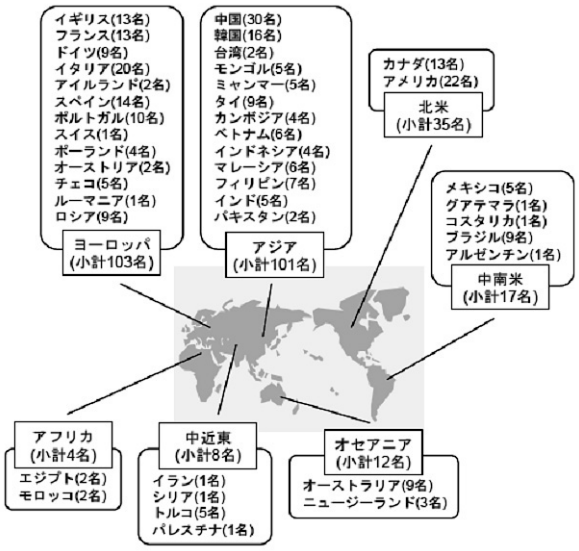

図１ 学生の留学先一覧

図３ 東京外語会海外支部一覧

（ii）多様な留学条件をカバーする支援スタッフ確保の困難性

一方、学生の留学支援のために直接投入できる大学資源（予算や人材）には、限りがあり、仮に国際性に富む有識者を留学支援アドバイザーとして学外に求めるにしても、上記のような留学先地域の広域性と留学先言語の多様性をカバーできる人材を確保することは極めて困難である。現在、こうした困難を克服する工夫が緊急に求められている。

（iii）本学卒業生の集合知の活用

本学の同窓会組織「東京外語会」は、就職相談事業、文化講演会、寄附授業の提供や、本学との合同公開講座の開催など、様々な形で本学の発展に貢献している。また、海外に48の支部を有し本学の国際学術戦略本部（OFIAS: Office for International Academic Strategy）が構築しつつある研究者レベルの海外ネットワーク形成にも協力している（図３）。

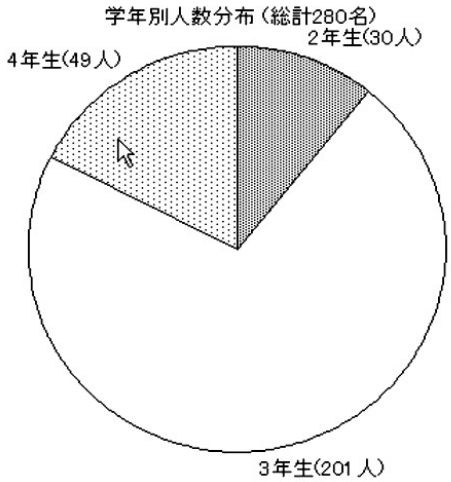

図２ 学年別留学者数

本学学生にとって、海外48支部の会員は現地の情報をリアルタイムで伝えてくれる情報提供者、また、現地にあっては生活上の安全確保のための力強い支援者となり得る。

（iv）学生支援力の具現化の可能性

大学資源としての卒業生の集合知を組織・活用し、学生支援力として具現化するためにはICT[2]を利用することが効果的である。具体的には、SNSを活用した支援基盤体制を整備し、電子支援コミュニティ（「e-アラムナイ」）を組織する。このようにすれば、大学、卒業生、学生間で情報交換や活発な交流ができ、現地情報をリアルタイムで伝えられるなど、現地情報をリアルタイムで伝えられない従来の限界を超えた留学支援が可能となる。

（2）意義

（i）学内外の協働事業

本プログラム「e-アラムナイ協働による学生留学支援」は、海外に居住する卒業生の力を組織化し、大学の学生支援に生かす取組である。従来の大学内組織（留学生課）だけで実施する学生支援と異なり、海外に居住する本学卒業生が関わり、留学先の選択や準備に対して適切な助言を行うほか、留学中の学習・生活なども留学生課と協働して支援する（図４）。

例えば、海外48支部のメンバーは、現地の情報をリ

2　ICT: Information & Communication Technology.

図４　e-アラムナイ概念図

アルタイムで伝えてくれる情報提供者であり、また現地にあっては生活上の安全確保のための力強い支援者となり得る。

有限である大学組織内資源（予算、人材）制約の中で、大学組織の外にある潜在的なリソースを顕在化し、利活用することで、効率的で且つ効果的な学生の留学支援を充実させる仕組である。大学の直接の資源投入を抑えながら学生に対するきめ細かな留学支援活動を実現することができる。

（ii）他事業への拡張性と大学力の向上

本プログラムを発展させ、国内の卒業生コミュニティを充実させることで、他の学生支援事業（学生のキャリア発達、アラムナイ事業や生涯アドレスサービスなど）にも資する事業展開が期待できるほか、国内外の卒業生コミュニティを構築することは、卒業生ネットワークの構築につながる。卒業生と在校生の交流が促進することで、本学学生の卒業後のキャリア発達にも好影響が期待される（図５）。

大学と卒業生との協働による学生支援体制を確立することで、双方のつながりを強化することができ、総合力としての大学力を向上させることができる。

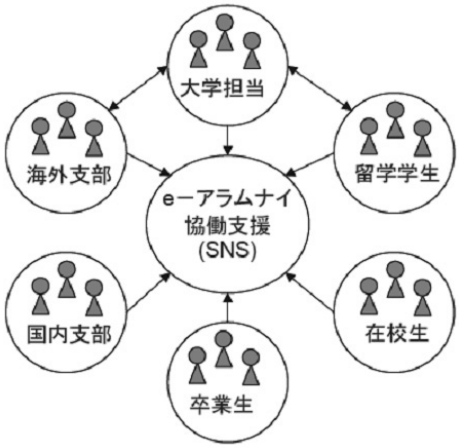

図５ 拡張したｅ-アラムナイ概念図

４. 本プログラムの独自性（工夫されている内容）

本プログラムの独自性は、次の３点である。

(a) 学生支援の方策として卒業生の集合知を活用する点

(b) SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用により、大学の直接の資源投入を抑えつつ、効率的で効果的な学生支援の枠組みを提案している点

(c) 学生主導の活動を支援することにより、学生の学習ニーズやキャリア発達に対応する点

上記３点について以下、詳述する。

（1）卒業生の集合知の活用

海外に居住する卒業生の潜在力を発掘し、組織化することで、外語大卒業生の集合知を学生支援力として大学の学生支援に活用する。有限である大学資源（予算や人材）制約の中で、大学外のリソースを活用し、効率的で且つ効果的な留学支援を充実させる。

（2）SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の効果的な利用

ｅ-アラムナイは、SNSを利用することで、物理的な空間制限や時間制限を越えた、仮想空間化された言語や地域コミュニティを提供する。きめ細かな留学支援を実施することができる。本プログラムでは、本学卒業生であることの確認を大学事務局が行いｅ-アラムナイ（SNS）に参加させ（図６）、また学生をも参加させ（図７）ることによって、学生には安心感と信頼感を与え、コミュニティ内で流通する情報の信頼性を高める。更に、外語大生であることの一体感を構築する。SNSの特徴機能であるコンタクトをするまでの匿名性の高さを利用して、学生が年齢差のある卒業生に容易

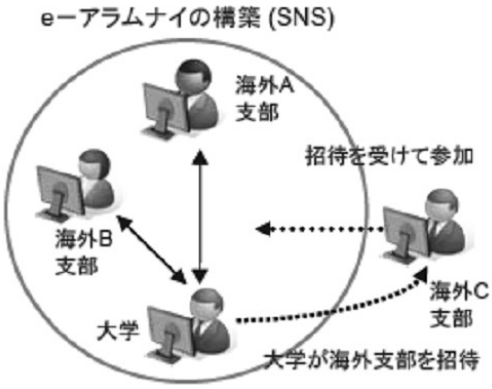

図６

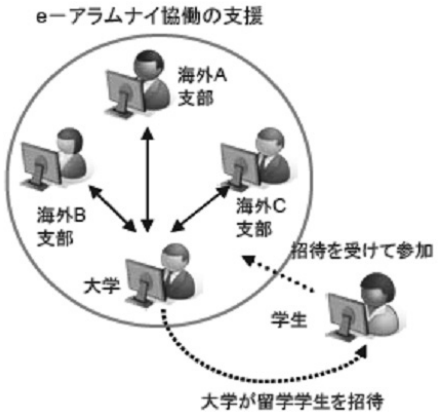

図７

に相談できる環境が用意できる。ひとたびやり取りができれば（言語や地域など共通項を介在して）密度の濃いコミュニケーションができる。従って、学生に対しての情報提供の質や量ともに高まる。

ｅ-アラムナイ（SNS）を利用して、卒業生と①専攻言語のコミュニティで学生が交流を拡げる、②留学先の地域のコミュニティで学生が情報交換する、③必要に応じて大学の担当部署（留学生課だけでなく教務課や学生課）が学生に連絡するので、学習や生活面で充実した留学生活を送ることができる。

（3）学生主導の支援活動を推進

大学担当部署が、学生に一方的に情報を与えるという発想から、ｅ-アラムナイのコミュニティを通じて、学生が自主的に情報を検索したり、卒業生と情報共有したり交流する空間の創出を行う取組である。留学に関する従来の支援と本取組の支援の相違点を表２に示す。

表２ 従来の支援と本取組の支援の相違点

教育プロセス	従来の支援	e-アラムナイ協働支援
入学（専攻語）		
専攻語学習	担当部署からの情報提供	学生主導のコミュニティ検索
		大学担当部署からの学生への連絡
	資料提供と留学手続き	学生と卒業生のコミュニティ内の情報共有
留学		卒業生コミュニティによる学生の支援
復学	復学手続きと修学指導	学生とコミュニティとの交流
卒業		コミュニティとの交流を通じたキャリア発達

成功する留学を促す人をインフルエンサー（影響を与える人）とし、そのポジションに本学卒業生を参加させることで学生支援に活用する。ｅ-アラムナイが発達してくると、おそらく各言語や各地域コミュニティには、それぞれ情報発信力や支援力に優れ、留学を意識する学生に多大な影響を与えるキーパーソンが存在することになるだろう。大学全体の学生支援力を向上することにつながるものと期待している。

５．本プログラムの有効性（効果）

本プログラムの効果として期待されるものは以下のとおり。

（1）留学環境の向上

（a）現地でなければ得られない情報を学生にリアルタイムで提供することができる。

（b）留学先で直接的なサポートが可能になる。

（c）留学中の学生の危機管理体制の強化を図ることができる。

（d）海外在住の卒業生との交流によりキャリア発達を図ることができる。

（2）「アラムナイ力」の顕在化

在外卒業生の力を集合知として顕在化し、グローバルな情報共有空間を創出。

（3）費用対効果の向上

効率的で効果的な学生支援を実現。

（4）現在行っている他の学生支援との相乗効果

本学の学生支援の取組は高度な語学力と豊かな国際感覚の涵養ということに重点を置いている。本取組は、「情報利用に関する支援」「世界の諸言語による演劇（語劇）上演支援」「ボランティア活動支援」「英語自律学習支援」や「就職支援」の取組と相当高い相乗効果が期待できる。

６．本プログラムの改善・評価

（1）評価体制・方法

本プログラムの評価は、留学生課及び「留学支援室」が行う。評価方法は、ｅ-アラムナイ（SNS）の活性度による。

（2）評価の観点

(a)　e-アラムナイの活性度（参加する学生や卒業生の数、登録者の伸び率、SNSへのアクセス数、メッセージ数、ランキング推移、通信パケット量、サーバ負荷など）。

(b)　e-アラムナイへの参加者の利用期間や電子アンケートによる満足度調査。

（3）評価結果の活用

活性度やアンケート調査の結果を評価し、次年度以降の改善につなげていくことはもちろん、参加者がe-アラムナイ内でどのような枠組を望んでいるのかもアンケートやインタビューなどを通じて明らかにし、多様なコミュニティ形成に活用する。

7．本プログラムの実現可能性・将来性

（1）運用予定

2008（平成20）年度

・留学支援室を開設し、必要な人材（コーディネーター１名、事務補佐員２名、事務職員１名）の配置を行う。留学支援室を中心に留学に有用なコミュニティ形成を行う。

・アラムナイ事業室と共同で、東京外語会海外支部への連絡や広報を行い、SNS参加者の募集を行う。

・総合情報コラボレーションセンターと共同でSNS基盤整備（ソフトウェア開発とハードウェア導入）を行い、e-アラムナイ環境を構築し、試験運用する。

・学生へのe-アラムナイを含めたアドバイジングを開始する。

2009～2011（平成21～23）年度

・e-アラムナイの本格運用を開始し、学生への支援を強化する。

・アラムナイ事業室と共同でe-アラムナイの拡大を図り、国内外を問わず卒業生のネットワークを構築する。

・総合情報コラボレーションセンターと共同で、e-アラムナイ環境を維持し運営する。

（2）実施体制

本プログラムの実施に当たっては、全学的な実施体制を構築する。全般的な企画立案・事業運営については、学生担当副学長が責任者となる。その下で「留学生課」及び同課内に開設する「留学支援室」が実施主体となり、「アラムナイ事業室」及び「総合情報コラボレーションセンター」が本取組の円滑な実施のために協力する。また、留学生委員会を通じ、各専攻語組織とも連携をとり、実施状況や課題を把握し、必要に応じて協力を行う。

（3）補助期間終了後の展開予定

e-アラムナイは、卒業生同士の情報交換や仕事の紹介、各種イベントの開催とその応募などのコミュニティ活動にも活用してもらい、自主運用体制を確立する。それにより本プログラム実施期間終了後の大学の直接管理負担を軽減する。運用経費は、本学の既定経費から措置する予定である。また、補助期間終了時の評価結果及び進捗状況等を踏まえ、更なる将来計画を策定し、就職支援、学術情報支援など多方面にわたる利用促進や利用者の拡大等を図り、e-アラムナイを一層充実させる。

選　定　理　由

東京外国語大学の学生支援は、外国語大学という特色を生かす理念や目標に基づいたものであり、適切なニーズ把握による具体的で組織的な取組が実施され、教育・研究活動とも関連づく成果を上げています。

また、今回申請のあった「e-アラムナイ協働による学生留学支援」の取組は、留学する学生が直面する様々な不安やトラブルの解消のためにSNSを利用し、海外の卒業生のネットワークと連携して支援しようとするもので、他に見られない工夫ある取組であると言えます。

特に、大学が卒業生の集合知を生かして学生を多面的に支援する取組は、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。